

令和7年度 糸魚川市中学生広島派遣研修の概要

1 目的

唯一の核被爆国の国民として、被爆の恐ろしさ、苦しみを伝えるとともに、次代を担う子どもたちの未来のために、平和で豊かな暮らしを認識することを目的とする。

2 派遣先

広島市

3 派遣期間

令和7年8月5日（火）～7日（木） 2泊3日

4 参加生徒

No.	氏名	ふりがな	性別	学校名
1	齋藤 優愛	さいとう ゆうあ	女	能生中学校
2	中嶋 美結	なかしま みゆ	女	
3	紺野 真翔	こんの まさと	男	糸魚川東中学校
4	竹田 悠真	たけだ はるま	男	
5	荻野 唯	おぎの ゆい	男	糸魚川中学校
6	岡田 英里奈	おかだ えりな	女	
7	田口 柚希	たぐち ゆずき	女	
8	荻野 凌	おぎの りょう	女	
9	馬場 一太	ばば いちた	男	青海中学校
10	大山 結唯	おおやま ゆい	女	

5 引率職員

No.	所属	職名	氏名
1	こども教育課	参事	渡邊 興勝
2	健康増進課	主査	荻野 朝子
3	総務課	主事	佐藤 風夢

6 実施経過

5月末	参加生徒、担当教諭の選出
6月 11 日（水）	担当教諭打合せ会
7月 23 日（水）	事前学習会
8月 5 日（火） ～7日（木）	広島現地研修
8月 22 日（金）	研修報告会
2学期以降	各学校での研修報告会

7 広島現地研修スケジュール

－ 1 日目 － 8月 5 日（火）

時 刻	行 程
6：20	出発式（糸魚川駅自由通路）
6：48	糸魚川駅 発
12：27	広島駅 着
14：15～15：10	平和記念公園見学（千羽鶴献納）
15：15～15：40	原爆ドーム見学
16：00～17：00	被爆体験講話聴講
18：50	旅館 着

－ 2 日目 － 8月 6 日（水）

時 刻	行 程
7：10	旅館 発
7：50～ 8：50	平和記念式典参列
11：20～11：50	呉市 海上自衛隊呉史料館見学
13：10～14：20	呉市 大和ミュージアムサテライト見学
15：10～16：45	旅館 着 とうろう流しメッセージ作成

研修の概要

18：55～19：50	とうろう流し参加
20：00	旅館 着

— 3 日 目 — 8 月 7 日 (木)

時 刻	行 程
8：00	旅館 発
8：20～9：30	平和記念資料館見学
12：12	広島駅 発
19：05	糸魚川駅 着 (大雨の影響で到着遅延のため帰還式中止)

広島派遣研修を振り返って

能生中学校 2年 斎藤 優愛

私はこの広島派遣をとおして、広島についてたくさん知り、学ぶことができました。平和記念公園では全校で折った千羽鶴を献納し、原爆ドームや平和記念資料館などの見学も行い、8月6日には平和記念式典への参列も行いました。式典で平和の誓いを聞き、見学しただけでは感じられない被爆の辛さを実感することができました。また実際に原爆ドームの前に立ってみると、戦争がどれほどのものを奪ったのかが、言葉にはできないほど伝わってきました。

資料館では、原爆が投下された直後の広島の写真や、当時使われていたお弁当箱や衣類、当時書かれた手紙など、被爆に関わる品々が展示されていました。その一つ一つを見ることで、これまで教科書や資料を見ただけでは感じきれなかった戦争の悲惨さが強く伝わってきました。戦争は一部の人だけでなく、子どもから大人まで、普通に暮らしていた多くの人たちを突然巻き込んでしまうことを改めて知りました。

そして、被爆体験講話では、佐伯さんから、被爆したことで社会で差別を受けることがあったという話を聞きました。被爆した人は体や心に大きな傷を負っただけでなく、周りの無理解や偏見によって、普通の生活では考えられないような苦しみも味わったのだと教えられました。知らないことを理由に恐れたり、偏見をもつのではなく、事実を正しく知ることがとても大切だと思いました。実際に佐伯さんが聞いた話や、体験されたことを聞き、知らないままにし

ておくことや、何となく怖がることが、さらに人を傷つけてしまうことにつながってしまうのだと学びました。ただ、「戦争や差別は良くない」と思うだけでなく、なぜそのようなことが起きてしまったのか、どうすれば同じことを繰り返さずに済むのかを考え続けることが、自分にもできる一歩だと思います。被爆についてのお話を聞いたことで、平和は当たり前にあるものではないことを知りました。私たちが正しい知識を持ち、それを周りにも伝えていくことが、未来の平和につながると思います。

今回の広島派遣で体験したこと、感じたことをこれからも忘れず、私ができることを自分なりに考えて行動していきたいです。そして、今回の派遣で学んだ「平和は当たり前にあるものではない」ということを、まずは身近な人たちに伝え、知ってもらいたいと思いました。私自身もそのことを忘れずに、自分にできることから始めていき、これから日々に生かしていきたいと思います。

広島派遣研修を振り返って

能生中学校 2年 中嶋 美結

私は8月に行われた中学生広島派遣研修に参加し、原爆投下の恐ろしさを学び、平和について考えてきました。その中でも私が心に残っているものは3つあります。

1つ目は、平和記念公園の見学です。各学校で心を込めて作った鶴を献納し、その後、平和記念公園を見学しました。平和記念公園を見渡してみると、たくさんの人たちが鶴を献納していて、たくさん的人人が80年前の広島について考えていることを感じられました。その後、被爆遺講展示館を見学しました。被爆遺講展示館では当時の住宅跡や道路跡などが露出展示されていて、原子爆弾の威力の大きさを感じました。80年前に起こった悲惨な出来事を忘れてはならないことを改めて感じ、平和についてこれからも考えていきたいと思いました。

2つ目は、被爆体験講話です。講話者である佐伯さんから、佐伯さんの家族の被爆状況や、当時の広島の様子について教えてもらいました。原爆が投下されたときは、目の前が眩しい光で覆われ、大きな音が鳴り、建物が揺れ始め、10秒ちょっとで爆風がきたそうです。お話を聞き、当時の出来事を想像してみると、原爆投下がどれだけ悲惨な出来事かと改めて感じることができました。原爆投下から80年経ち、お話を聞ける機会が少なくなった今、私たちが今回学んだことを次の世代へ伝えていきたいと思いました。

3つ目は、平和記念資料館の見学です。平和記念資料館は、1994年に展示・

収蔵機能や平和学習の場を充実させるために作られました。被爆前後の広島や原爆が投下された経緯などが模型や映像などで紹介されていました。展示されていた遺品からは原爆の恐ろしさを目で改めて感じることができました。特に、放射線による被害はとても恐ろしいものだと感じました。原爆から放出された大量の放射線は人々の体を蝕み、被爆直後に広島市内にいた人々には高熱や下痢、脱毛といった症状が現れ、ひどい人には皮膚に紫色の斑点が現れた人もいることを知り、胸が苦しくなりました。二度と原子爆弾が投下されないように、幸せに暮らせる人が増えるように、私たちにできることがあれば少しずつしていきたいと思いました。

広島派遣ではたくさんのこと学び、考えることができました。今回学んだことを成長につなげ、学校の仲間をはじめ地域の方々や家族に伝え、平和の大切さを広げていきたいです。そして、1日1日を大切に笑顔でこれからを過ごしていきたいです。

広島派遣研修で学んだこと

糸魚川東中学校 2年 紺野 真翔

今回の広島派遣研修で学んだことはもう絶対に戦争を起こしてはいけない、戦争の悲惨さ、命の尊さでした。また、他の学校の仲間と一緒に行ったことで友達も増え、楽しく学習することができました。

1日目に被爆体験講話を聞いて、実際にどういうことが起きたのかをより詳しく知りました。その中でも放射能による差別、爆風後の悲惨な人々の姿の話を聞き、胸がとても苦しくなりました。苦しい記憶ですが、平和への願いを込めて広島で講話の活動をしていることがすごいと感じました。戦後80年で実際の被爆体験の話を聞ける機会が少なくなる中、このような話を聞くことで今まで知らなかったことを知り、その後の2日間の研修がとてもわかりやすいものになりました。

2日目は広島の平和記念式典に参加し、平和の尊さを強く感じました。式典では黙とうが行われ、原爆で犠牲になられた方々に心から祈りを捧げました。静かな会場の雰囲気から、戦争の悲惨さと命の大切さを実感しました。また、小学生代表の平和への誓いを聞き、時の苦しみや悲しみを知ることで、二度と同じ過ちを繰り返してはいけないと強く思いました。海外から多くの人々が参加しており、平和への願いが国境を越えて共有されていることに感動しました。

その後、海上自衛隊呉史料館に行きました。そこには戦争中に使われたものがたくさんありました。実際に使われた潜水艦があり、中にも入れました。次に大和ミュージアムサテライトに行きました。大和ミュージアムサテライトで

は戦艦大和や呉の歴史について学習しました。ここでは戦艦大和の技術にも驚きましたが、何より戦艦大和の作り方がとても精密でした。また、戦争にどんな兵器が使われたのか知ることができました。

2日目の最後はとうろう流しをしました。とうろうに願いを込め、多くの方々が参加していました。美しく流れるとうろうの様子を見ながら、それぞれの人の思いがかなうことを願いました。

3日目は平和記念資料館を見学しました。ここには戦争で亡くなってしまった方の私物や苦しんでいる様子の写真が飾られていました。血がついてぼろぼろな衣服や、人の影のように黒く残ってしまった石、原爆が落とされたときの写真を見て、その凄まじさに驚きました。外国の方も多く、いろいろな人に戦争の恐ろしさが伝わり、二度と繰り返してはいけないと感じてくれるといいなと思いました。

この3日間で、戦争は二度と起こしてはいけない、命を奪う行為は平和にはつながらないことを改めて実感しました。

なぜ、戦争をしなくてはいけなかったのか、戦争によって何が変わったのかを考え、今の平和な世界で生きていられることに感謝して生活しなくてはいけないと思い、今回広島派遣研修に参加し、教科書だけでは学ぶことができないことを実際に肌で感じることができました。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

戦争の悲惨さと平和の大切さを胸に

糸魚川東中学校 2年 竹田 悠真

今回、広島派遣研修に参加し、3日間を通して戦争の恐ろしさと平和の尊さについて深く学ぶことができました。教科書でも知識として学んでいたことも、実際に現地で話を聞き、平和記念式典に参加し、資料を目にすることで、より現実味をもって心に刻まれました。ここでは、その中でも特に印象に残ったことについて振り返りたいと思います。

1つ目に印象に残っているのが被爆体験講話です。被爆体験講話のお話を聞いて、原爆が人々の命や日常を一瞬で奪ったことの恐ろしさを実感しました。講話の中で、胎内被爆について初めて知りました。原爆が落とされたとき、お母さんのおなかの中にいた赤ちゃんも放射線を浴び、成長に影響を受けたことを聞き、とても驚きました。生まれる前から健康や命が脅かされるなんて、本当に悲しく恐ろしいことだと思いました。

2つ目に印象に残っているのが平和記念式典です。平和記念式典に参加し、静かな中に多くの平和が込められていることを感じました。市長の平和宣言や子供代表の誓いの言葉から、戦争を二度と起こしてはいけないという強い決意が伝わりました。日常の平和が当たり前ではないことを忘れず、これからも平和を守るためにできることを考えていきたいと思います。

3つ目に印象に残っているのが平和記念資料館です。平和記念資料館を見学し、原爆の恐ろしさと戦争の悲惨さを改めて感じました。資料館の当時の写真や焼け焦げた衣類、壊れた日用品を目の前にして、教科書で学んだことよりも強い衝撃を受けました。特に被爆した子供たちの遺品には胸が締めつけられました。何の罪もない多くの人たちが命を奪われたことを忘れてはいけないと

いました。今生きていらざることがどれだけ幸せか改めて感じることができました。

今回の広島派遣研修を通して、戦争や原爆の恐ろしさ、そして平和の大切さを強く感じました。平和記念式典では、多くの人々が祈りをささげ、戦争を二度と起こさないという決意を共有していました。平和記念資料館では、写真や遺品を通して、原爆で一瞬にして命や日常が奪われた現実を知り、胸が痛みました。被爆者講話では、放射線による健康被害の深刻さを学びました。これからも学んだことを周りに伝え、二度と同じ悲劇を繰り返さないために行動していきたいです。さらに、この学習を通じて「今ある平和をどうつなげていくか」という問いを持つようになりました。日々の生活の中でも相手を思いやり、小さな争いを避けることが平和につながるのだと考えます。今回の経験を忘れず、未来を担う一人として責任ある行動を続けたいです。

「平和の大切さ」

糸魚川中学校 2年 萩野 唯

私は、終戦 80 年の今年、糸魚川市中学生広島派遣研修に参加してきました。その中で、平和記念式典へ参列し、被爆体験講話や平和記念資料館で実際見たことや聞いたことがとても印象に残っています。

平和記念式典では、原爆で亡くなられた方の靈を慰めることで、世界平和に対する想いの大切さを感じました。式典には想像以上に多くの方が参列していました。子どもからお年寄りまでの幅広い世代の方、そして日本人だけでなく外国人も多くいました。世界全体が戦争や平和について学ぼうとしていたことを知り、とても感動しました。

被爆体験講話では、佐伯さんご夫婦から貴重なお話を聞かせていただきました。佐伯さんのおばあさんは原爆投下された近くで被爆し亡くなられたそうです。また、被爆により皮膚が焼け爛れた人たちが、爆心地から逃げてくる凄まじい様子を佐伯さんは語ってくださいました。80 年前の出来事であったとしても、とても現実で起きたこととは思えませんでした。奥様は、お腹にいるときに被爆したそうです。爆心地から半径 2 キロ以内の場所での被爆にもかかわらず、なんとか逃げ、助かったそうです。しかし、生き延びたとしても、大切な人を失い、悲しい生活をしなければならなかった人や、被爆による後遺症や差別に苦しむ人が多くいたこと、そしてその人たちは今も苦しんでいることを教えてくださいました。思い出すだけでも辛いことだったにもかかわらず、当時のことを詳し

く話してくださったということは、この悲劇は絶対に忘れ去ってはいけないものだと改めて思いました。

平和記念資料館では、戦争の恐ろしさを自分の目で確かめることができました。原爆により一瞬で破壊した町の様子、全身に火傷を負った人々、被爆の後遺症で苦しむ人々など、悲惨な現状の写真や物、被害に遭った人たちの言葉や思いなどが展示されていました。どれも、見ているだけで心を抉られるような感覚でした。その中で私が最も心に残ったのは、「魂の叫び」のコーナーです。苦しみながら死んでいった人々の無念と、遺族の深い悲しみが、遺品とそれにまつわるエピソードと共に紹介されていました。原爆投下という予想もしていなかった現実が、一瞬にして人々の日常を奪ってしまったことを改めて実感し、強い衝撃を受けました。

3日という短い期間でしたが、この広島で学んだことは一生忘れられないほど深く心に残りました。しかし、学んだだけでは平和は実現されません。なので今回学んだ「平和の大切さ」を、まずは身近な人に正しく伝えていきたいと思います。

ノーモアヒロシマ

糸魚川中学校 2年 岡田 英里奈

今回、被爆地広島を訪れ、改めて戦争の悲惨さを学びました。

1日目の被爆体験講話でお話ししてくださいましたしずよさんは、お母さんのお腹の中にいたとき原爆が投下され、その後お母さんだけが亡くなられたとお聞きしました。現在、被爆者の数は少なくなり、このような体験を語り継ぐことが非常に難しくなっていると聞きました。講話を通じて多くの人が事実を知る必要があると思いました。そして、私達が次世代へと語り継いでいくことが大切なだと感じました。

2日目の平和記念式典では、世界各国の人々が参列していました。今でも世界各地で戦争が起こっているため、平和を願う外国の人が多いのだと思いました。私たちが毎年、広島と長崎で平和を祈るこの式典の意味を、今一度世界中に広めると共に、平和の大切さを改めて伝えていく使命が私たちにはあると思いました。

最終日には、平和記念資料館を訪れました。被爆で焼けただれた人の写真、実際に着ていた服、被爆後の広島市街地の写真など、どれを見ても私が今まで見てきたものの中で、一番残酷でした。今年で戦後80年となります。長い年月を感じさせない空間がそこにはありました。資料館を訪れている人達は皆、静かに、真剣に、展示品を見ていました。展示を見ながら泣いている高齢の方もいらっしゃいました。この残酷な被害を生み出した「リトルボーイ」と呼ばれた原子爆弾

の大きさは、長さ 3.05 メートル、直径 0.71 メートル、重さ 4,400 キログラムです。こんなもので、爆心地から直径にして約 13.2 キロメートルの範囲が被爆することに驚かされました。私は、今まで戦争の悲惨さをある程度は理解していましたが、今回広島派遣研修に参加し、その悲惨さをさらに強く感じました。

私の父方の曾祖父は、長崎で被爆しました。長崎市内のビルの4階で、仕事中に原爆が投下され爆風で吹き飛ばされたと聞きました。運良く吹き飛んだ場所が柔らかい場所だったため、命はとりとめました。その後、焼け野原にたくさん的人が亡くなっている中を、絶望しながらなんとか家に帰ったと聞きました。そして戦後、日本に危機を感じ、南米へ渡り、この被爆体験の話を何度も語ったそうです。祖母も何度もその話を聞かされ、そして私に語ってくれました。戦争や被爆の体験談は、語り継がなければいけないことだと思います。唯一日本人だけが原爆の経験をしているからこそ、語り継ぐことが大切なのです。

人が人を傷付ける戦争は、何の意味もない、何の得もないことだと思います。今、私たちは平和な世界に向け、次世代へと語り継いでいくことが平和の第一歩になるのだと感じました。

広島派遣研修に参加して

糸魚川中学校 2年 田口 柚希

私は祖母の戦争体験を聞いたことをきっかけにして、被爆した人にしか分からぬ苦しみや辛さを知るため、広島派遣研修に参加しました。初日の被爆体験講話では、被爆者である佐伯克彦さんご夫婦からご家族やご自身の体験談、原爆が投下された当時のお話を聞きました。特に印象に残ったのは、建物疎開中に被爆した学生のお話です。建物疎開とは空襲が起きたときに火が燃え広がらないよう防火体を確保するため建物を壊す作業のことで、主に13~14歳の学生が従事していました。当時広島市中心部で建物疎開が行われていました。そこには被爆したたくさんの学生が集まっていたそうです。自分と同じような歳の学生の被爆体験を聞き、苦しくなりました。また、こうやってたくさんの学生が命を落としたことを初めて知り、二度とこのような理不尽なことが起きてはいけないと改めて強く思いました。

平和記念式典では、事実を風化させず多くの人へ伝えていくことの大切さを学びました。また、平和への誓いにある「周りの人たちのためにほんの少し行動することがいすれ世界の平和につながるのではないか」という言葉が印象に残りました。これからは自分の行動を見直すだけでなく周りの人へ平和につながる取り組みを広げていき、少しずつでも平和へと向かって行けたらいいなと思いました。

平和記念資料館では、被爆前の広島の様子や被爆者の方々の遺品や絵、写真な

どが展示されていました。その中にあった学生の持ち物や、水筒や弁当箱から被爆前の平和な1日が始まろうとしていたことが分かり、平和の大切さをもの凄く実感しました。また、被爆者の方々が描いた絵や日記、手紙には当時の悲惨な状況や、生前の思いが綴られていて、胸がいっぱいになりました。

このような原爆で亡くなった方々の生きた証を見て、被爆した方々は原爆が投下されるその瞬間まで日常生活を送っていたということをもの凄く感じました。

8月6日、一発の原子爆弾で多くの人の命が奪われ、人生を変えられてしまいました。あの日の出来事をもう二度と起こすことのないよう終戦から80年が経った今、この事実を風化させず私達がたくさんの人々に伝えていくことが平和への第一歩だと考えています。今後も広島で学んだことを友人や家族に伝え、平和について考え続けていきたいです。

平和は当たり前ではない

糸魚川中学校 2年 萩野 凌

今回の広島派遣研修は、私にとって一生忘れられない、3日間になりました。戦争の悲惨さや平和の大切さを、実際に広島の地で体験を通して深く学ぶことができました。

1日目、私たちは朝早く駅を出発し、広島に到着しました。最初に平和記念公園で千羽鶴を献納しました。自分たちの手で折った鶴を並べながら、「平和への願いが届きますように」と強く祈りました。その後、被爆者の方のお話を聞きました。大切な家族や友達を一瞬で失った苦しみや、今でも続く後遺症のつらさなどを聞き、私はどれほど多くの人の人生を壊したのかを感じました。

2日目は、まず平和記念式典に参加しました。会場はとても静かで、犠牲になった方々への祈りと平和への願いに包まれていました。鐘の音が響いたとき、胸が締め付けられるような気持ちになりました。その後、海上自衛隊呉史料館を見学しました。実物の潜水艦を見て、戦争のためにどれだけの技術や人々の努力があったのかを知りました。さらに、大和ミュージアムサテライトでは、戦艦大和の模型や資料を見て、戦争との関わりを学びました。夜にはとうろう流しを行いました。私は川に浮かぶとうろうを見ながら、「誰もが笑える世界になって欲しい」という思いをとうろうに込めました。とても静かで、心が平和への祈りで満たされました。

3日目では平和記念資料館を見学しました。そこには原爆の恐ろしさを伝え

る写真や遺品が展示されていました。特に黒く焦げ、変形したお弁当や着物の切れ端を見たとき、普通に暮らしていた人々の生活が一瞬で奪われたことを強く感じ、胸が痛みました。多くの資料をみて、私は「戦争は二度と繰り返してはいけない」と心から思いました。その後、広島を出発し、無事に到着しました。到着した後も頭の中には広島で見た光景や聞いた言葉が残っていました。

三日間を通して、私は「平和は当たり前ではない」ということを学びました。そして、この体験を自分の中で終わらせるのではなく、家族や友達に伝えていきたいと思います。二度と同じ悲劇を繰り返させないために、私にできることを考え続けたいです。

「広島派遣研修を振り返って」

青海中学校 2年 馬場 一太

私にとってこの広島派遣研修は、とても貴重な体験になりました。これまで、新聞や本、ネットなどでしか知ることができませんでした。ですが、今回の研修で実際に広島に行って、普段ではできない様々なことを見て、聞いて、体験することができました。そんな貴重な時間の中で私の印象に深く残ったことが3つあります。

1つ目は、千羽鶴献納のときです。私たちは広島に来て最初に平和記念公園を見学し、原爆の子の像で私たちが学校で作った千羽鶴を献納しました。像の周りには数えきれないほどの折り鶴が献納されていて、たくさんの人人が平和を願っているのだと感じました。

2つ目は、実際に広島の原爆を体験した佐伯克彦さんの講話です。克彦さんから被爆時、広島がどんな状況だったのかを詳しく教えてもらいました。そこで私が学んだのは、被爆者が熱線や放射線による怪我だけではなく、差別にも苦しんでいたということです。例えば、被爆者と結婚をすると、よくない子どもが生まれる、広島には放射能が漂っているなどの差別や偏見を受け、苦しい思いをしていました。ただでさえ原爆の影響で苦しんでいる人達がいるというのに、その人達が差別や偏見を受けなければいけないのかと胸を締め付けられました。しかし、現在でも同じようなことが様々な所で起こっています。例えば2011年に起きた福島原発の事故では、避難してきた子供がいじめにあ

ったり、宿泊施設やガソリンスタンドの利用を拒否されるなどの、放射線への誤解から、差別や偏見が起きていました。

3つ目は、平和記念資料館です。そこでは原爆によって命を落とした人が遺した衣服や家具、被爆した人が撮った写真などが展示されていました。その中に、被爆時の広島の全体写真がありました。その様子を見ると、ほとんどの建物が全壊し、木々は朽ちてまさに地獄のようでした。被爆者は熱戦や放射線の影響で皮膚がただれたり、火傷を負うなどの怪我に苦しんでいたということを知り、原爆がどれほど恐ろしいもので、繰り返してはいけないものだ、ということを深く知ることができました。

私はこの広島派遣研修を通して、原爆の恐ろしさや悲惨さを学びました。現在、広島では原爆や戦争のことを伝え、平和に向けて活動しています。ただし、広島県や広島県民に対する差別が完全になくなかったわけではありません。被爆者の人達の講話から僕が学んだことは、「正しく伝える」ということです。現地で学んだことを決して忘れず、これから多くの人に伝えていきたいと思います。

広島派遣研修へ行って

青海中学校 2年 大山 結唯

広島に原爆が落とされてから 80 年と節目の年になりました。戦争についてよく知らない私達の世代でしたが、今回の派遣で見て、聞いて、感じたことを紹介します。

1 つ目は、被爆体験講話についてです。講話者は爆心地から離れており、被害が比較的少なかった場所で暮らしていた男性と、当時爆心地から少し離れたところに住んでいた方のお腹の中にいたという女性でした。講話者は兄や爆心地に近かった人が見た状況を話さないことが多かったということや、差別があったということを話していました。私は見た状況を話さないというのは、それほど酷い光景だったのかなと思っていましたが、講話者によると「話したら差別に遭ってしまうから」とおっしゃっていて驚きました。被爆者が受けていた差別では、被爆者の体に原爆が残っていると言われ、うつるからと避けられたり、当時は男尊女卑の時代もあり、子供にも遺伝すると女性の差別が多く、「広島の人たちは怖い」という間違った情報の影響で避けられることが多かったと聞きました。講話者は最後に、大切なことは、「正しく知り合うこと」とおっしゃっておられました。

2 つ目は、平和記念式典についてです。私は、平和記念式典をしていたところは 80 年前ちょうど原爆が爆発した場所と聞き、そのような場所に私が立っているのだなと思うと何とも言えない気持ちになりました。また、たくさんの国の

人が広島に集まって、黙祷をしている姿には一体感があり、貴重な体験だと感じました。

3つ目は、広島平和記念資料館についてです。原爆が爆発した当時に被爆者が着ていた服や残した手紙などが写真と一緒に展示されていました。服などには血や泥がついていたり、手紙には大切な人への感謝や謝罪が書かれていたり、遺書がありました。当時の状況がどれだけ悲惨だったかを物語っており、授業などで勉強していたつもりでしたが、実際に見ると想像以上の衝撃を受けました。

今回の経験から、教科書などでは分からぬことがたくさん学べました。戦争がどんなものだったのかを知ることができ、改めて平和に生活することのありがたみと、大切さを感じました。

研修で学んだことを周りの人に伝え、原爆が投下され多くの人が犠牲になつたことを決して忘れないことが、自分にできる平和への一歩だと考えます。

今でも世界では戦争が起こっています。たくさん的人が大切な人を亡くし、当たり前の生活を奪われ苦しむ戦争がもう二度と起こることがないように願います。

糸魚川市平和都市宣言

糸魚川市は、新潟県の最西端に位置し、日本海や北アルプスの山々などの自然資源とヒスイ文化をはじめとした歴史や伝統文化を有しています。この豊かな自然と歴史の織り成す地に生活する私たちは、この郷土を大切に守り、市民のいきいきとした活動と交流がもたらす活力のある美しいまちを築き、戦争のない平和で豊かな暮らしがいつまでも続くよう念願しています。

しかし、今なお世界各地では、戦争によってかけがえのない多くの命が失われています。

私たちは、唯一の核被爆国の中として、被爆の恐ろしさ、苦しみを伝えていく役割を担っています。また、次代を担う子どもたちの未来のために、平和で豊かな暮らしを伝えていかなければなりません。

糸魚川市は、市民とともに平和と安全を求める誓いを新たにし、核兵器の廃絶と戦争のない真の恒久平和を願い、ここに平和都市を宣言します。

平成19年6月28日

糸魚川市